

血液学検査・血中薬物検査

項目名	対象動物	材料/量 (mL)	保存方法	測定方法	報告日数	参考基準範囲	単位	料金(税抜)	
凝固	PT・APTT・フィブリノーゲン	犬・猫	クエン酸血漿	凍	光散乱法	PT 犬：6～8 猫：8～10	秒	4,000	
						APTT 犬：10～16 猫：10～32	秒		
	フィブリノーゲン 犬：86～375 猫：52～302	mg/dL							
AT (アンチトロンビン)	犬・猫	0.3		合成基質法	～2	犬：102～156 猫：107～141	%	1,500	
TAT (トロンビン・アンチトロンビン複合体)	犬	0.3		CLEIA法	～2	0.2以下	ng/mL	3,500	
線溶	FDP	犬・猫	血清・クエン酸血漿	凍	ラテックス免疫比濁法	即日	5以下	μg/mL	1,500
	Dダイマー	犬・猫	クエン酸血漿	凍	ラテックス免疫比濁法	～2	犬：2.0以下 猫：1.5以下	μg/mL	2,000
血液型	血液型 (犬) ㊦	犬	EDTA全血	室	凝集法	即日	DEA1.1 DEA1.1 (-)	—	5,000
	血液型 (猫) ㊦	猫			イムノクロマト法	即日	A、B、AB	—	5,000
血球分類㊦	血球計算	犬・猫	EDTA全血	室	フローサイトメトリー法・電気抵抗法	即日	下記参照	—	600
	白血球分類					～2			400
	網状赤血球数 ※					～2			700
	全血3点セット (血球計算・白血球分類・網状赤血球数)					～2			700

㊦ 検体採取後24時間以内の測定実施が望まれます。日曜日、祝日着のご発送はご遠慮ください。

注) 凝固線溶系検査では、検体にフィブリンが析出しますとデータに大きく影響を及ぼします。

※ 参考値設定とは別に、「80×千/μL以上で再生能あり」という基準を設けております。(Fundamentals of Veterinary Clinical Pathology 133p.より引用)

凍の検体は必ず凍結保存してください。冷の検体は必ず冷蔵保存してください。室の検体は必ず室温保存してください。

外は外注検査です。

〈血球計算 参考基準範囲〉

項目名	犬	猫	単位
白血球数	6000～17000	5500～19500	/μL
赤血球数	550～850	500～1000	×10 ⁴ /μL
ヘモグロビン	12～18	8～15	g/dL
PCV (ハマトクリット)	37～55	24～45	%
MCV	60～77	39～55	fL
MCH	19.5～26.0	12.5～17.5	pg
MCHC	32～36	32～36	g/dL
血小板	20～40	30～70	×10 ⁴ /μL

〈白血球分類 参考基準範囲〉

項目名	犬	猫	単位
好中球	46.3～73.6	40.5～86.2	%
リンパ球	19.5～43.0	6.4～52.6	
単球	3.1～6.9	0.9～9.2	
好酸球	1.2～9.3	0.5～18.1	
好塩基球	0.2～0.7	0.0～0.6	